

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	1
事業名	教育委員会事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校の、基本的な運営方針の決定等における中立性、小中学校の学習期間を通じた教育の継続性及び安定性を確保し、また、広く地域住民と連携しながら、子どもの健全な成長発達を目指すことを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会 ・ ・ ・ 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会は、議案審議が主となっている。教育委員会として取り組むべき課題を協議する時間を増やすため、議案の約半数を占めていた後援名義使用許可について、平成23年12月から、原則、新規の案件のみを議案とする方法に見直した。 ・従来から、会議の傍聴は可能であるが、会議の公開及び非公開の原則、会議を非公開とする場合の手続きを明記するため、平成24年10月、大口町教育委員会会議規則を一部改正し、併せて、傍聴人の定員、傍聴の手続き等について定めている大口町教育委員会傍聴規則を全体的に見直した。 ・教育委員会定例会では、可能な限り、テーマを設定し、教育委員会として協議した結果をもとに、生涯教育部内の各課が具体的な施策を進めていくような取組が求められる。 		
平成26年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会で協議するテーマの設定については、生涯教育部の各課の検討事項を取り上げ、部全体の課題を検討するよう努める。 ・学校の現状等を把握するため、定例会を学校で開催することとし、平成24年度は大口南小学校及び大口西学校、平成25年度は全小中学校で開催することとした。平成26年度についても、引き続き、年数回は学校で開催する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 3	定例会（毎月1回開催） * 7月臨時会 教科書採択 * 10月臨時会 委員長及び委員長職務代理者の選任（任期は1年間）

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	.
H28 年度	.

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	1,853	2,027	2,239
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.6	0.6	0.9
	臨時職員	人工	0.1	0.2	0.4
	計	人工	0.7	0.8	1.3

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
費用弁償	261	197	町立図書館建設に向けて、教育委員会で先進地視察を実施する。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・学校の状況等を把握するため、例年各学校を訪問しているが、今年度も引き続き全ての小中学校において、各1回ずつ定例会を開催し、学校長などから学校が抱える課題等を直接、教育委員が聞く機会を設けた。
- ・平成23年度から実施している「大口町の教育を考える会」を開催し、今年度は、小中学校・家庭と地域の連携、あり方をテーマに意見交換会を行い、大口町教育行政の基本方針を作成した。
- ・平成27年4月1日から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行されることに伴い、関係する条例・規則の改正を行った。

■ 評価

- ・小中学校において各1回ずつではあったものの、学校長などから教育委員が学校の状況等を聞くということは学校現場、教育委員会にとって非常に有意義なことではないかと考える。
- ・大口町の教育を考える会は、各地域代表、生涯学習のまちづくり実行委員代表、平成25年度各学校PTA会長、学校評議員、民生・児童委員、幼稚園・保育園関係者、教育委員会外部評価委員、小中学校長、教育委員から貴重な意見をいただき、地域の役割や方針また、学校、家庭、地域の連携のあり方について取りまとめ、今後の大口町の教育行政の基本方針を作成した。今後はリーフレットを作成し「大口の子どもは大口で育てる」という目標のもと普及、啓発に努める。
- ・法改正に伴い必要な条例・規則の改正を行った。今後はさらなる教育委員会の活性化、町との連携強化に努める。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	2
事業名	学校教育管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改革を目指すとともに、教員の資質向上を図る。 ・確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育むため、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。 		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室 ・ 就学時健康診断 ・ 教職員等健康診断 ・ 私立高等学校等授業料補助 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室は、学校復帰が目標であり、在籍者数はほぼ横ばいで推移しているが、個々の状況に応じて取り組んでいる。保護者、学校、教室間の連絡調整を密にする必要がある他、入室には至らないものの不登校の恐れがある児童生徒がいる。 ・ 80歳で20本以上の歯を保つ8020運動の一環として、児童の歯の健康及び将来の保険料軽減を図るため、フッ化物洗口の実施に向けて学校及び関係機関と協議を進めている。 ・ 平成21年度に小中学校のPC更新後4年が経過している。 		
平成26年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室では、子どもの学校復帰を第一とし、保護者、学校、教室間の連絡調整の仕方を今一度、再検証し、具体案を決定、実施する。 ・ フッ化物洗口については、学校現場の負担を少しでも少なくする環境を整備し、新一年生に対して学校が落ち着く6月頃より実施する。 ・ 平成26年度よりWindowsXPのサポート期間が終了することに伴い、学校のPC更新を実施する。更新に当たっては、学校と調整しながら学校運営に支障をきたさないよう順次進める。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	【適応指導教室】
4	平成 26 年度経営案の作成、連絡会議 フッ化物洗口実施のための準備
6	フッ化物洗口実施
8	PC の更新
7	保護者会
9	連絡会議
12	保護者会
3	平成 27 年度経営案の作成、連絡会議

□3 年間の目標

目標	.					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	.
H28 年度	.

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	18,761	21,373	270,917
(内特定財源)		千円	7	8	40,008
人工	職員	人工	0.5	0.6	0.8
	臨時職員	人工	2.2	2.2	2.4
	計	人工	2.7	2.8	3.2

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
学校基本調査事務市町村交付金	7	
図面、用紙等売払収入	1	
電算機器整備基金繰入金	40,000	
合計	40,008	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
消耗品費 事務用	547	188	フッ化物洗口に必要な薬剤、冷蔵庫等を購入する。
スクールネット機器更新設定委託料	23,778	23,778	学校のPC更新に伴う機器設定委託
備品購入費	223,810	223,810	学校のPC更新

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

【適応指導教室】

児童生徒の学校復帰する力の育成、基礎的な学力の定着と集団適応能力の育成、基本的な生活習慣の定着を目標に、主として次の取組みを行った。

①学習指導

各児童生徒の現状と実態を踏まえ、週間予定表に基礎学習の時間を系統的に設定し、教材教具を活用しながら、すべての学習の基本となる国語及び算数（数学）の基礎学力の定着を図った。

②集団適応指導

保護者にも参加を呼びかけながら、ゲーム、校外学習、料理教室等を実施し、他の人と関わり合う機会と場を設定することで、外出や多人数での行動に対する恐怖感の克服を目指した。

③学校行事への参加

児童生徒の気持ちに配慮し、無理のない範囲で、在籍校の行事への参加、興味関心のある授業や活動に参加させ、適応能力の向上につなげた。

④関係機関等との連携

適応指導教室、在籍校、保護者及び教育委員会が、各々の役割を共通理解して連携し、一部の町部局や団体等の協力を得ながら、児童生徒の支援にあたった。

【フッ化物先口】

全小学校の新1年生を対象に、6月から週1回フッ化物先口を実施した。

【PC更新】

学校運営に支障とならないよう、夏休み期間中に円滑に更新することができた。

■ 評価

【適応指導教室】

平成22年度から年間計画に位置付けた在籍校との連絡会議を3回（5月、9月、3月）、学習や生活の状況、現況や今後の見通しの確認のための保護者会を随時実施し、関係者の考え方、情報を共有することで、各児童生徒に差はあるが、学校復帰に向けた支援にあたることができた。また一部の町部局や団体等の協力により、調理実習や保育実習等、学習以外の体験の場を得ることができた。

児童生徒の抱える問題や状況が違いため、目標や支援の設定が難しい面があるが、今年度より、学校復帰計画書を当人への聞き取りにより作成し、スモールステップで当人と学校との距離を縮めるとともに、能動的に活動できるよう促した。加えて、指導員の熱意ある指導と学校の強い支援、生徒や保護者の努力の結果として、平成26年度末をもって1名が退室し、平成27年度より学校復帰することができた。今後も、学校復帰に向けた意識づけを支援し続ける必要があり、そのためにも、引き続き関係機関等との連携強化に努める。

【フッ化物先口】

愛知県江南保健所、尾北医師会、町健康生きがい課と連携し、保護者の同意を得て、学校の関係職員対象の説明会を行ったうえで、年間を通して、計画的に週1回実施することができた。今後は毎年1学年ずつ対象学年を増やし、小学3年生まで実施した段階で、実施学年をどこまでにするのか再検証する。

【PC更新】

WindowsXPのサポート期限が終了を迎えることから、全小中学校のコンピューター教室のPCを更新した。また、将来の1人1台タブレット端末導入を見据え、各学校の特別支援学級或は教員の研修用に5台のタブレット端末を配置した。今後は、タブレットを活用した授業が展開できるよう、教員の研修を実施していく必要がある。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部学校教育課	No.	3
事業名	小学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業力向上をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・児童の健康診断 ・各種検査・テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会 ・スクールバス運行 ・英語指導助手講師派遣
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、各学校の特色を活かした活動を進めるとともに、学級を基盤とした児童の豊かな心を育む教育活動を進めている。 ・教育の多様化に対応するため、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等の有効活用を一層研究し、児童の意欲を喚起する学習指導の推進、道徳の授業を重視した豊かな心の育成に取り組む必要がある。 		
平成 26 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・各学校において、これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、各学校の特色を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 ・検便、心電図については、法的根拠及び学校医の意見、他市町の状況を確認した上で検査内容の見直しを行う。(検便実施しない。心電図小4実施しない。)また、検査事務を効率的に進めるため、耳鼻科器具の賃借を新たに実施することとする。 ・近年、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥、多動性障害)、アレルギー体質の子など特別な配慮が必要な子が増えてきている。このため、現在1年生の学級数で学校支援員を配置しているが、平成26年度からは1年生の学級数+1名とし、支援が必要な子への対応のほか、よりきめ細かい学校運営に対応できるような人員配置とする。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	目標の設定
10	前期の評価・検証、後期へ向けての活動内容の確認
3	後期の評価・検証、次年度へ向けての課題、改善策の確認
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動を基盤とした教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 ・児童一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	75,389	78,012	81,563
(内特定財源)		千円	0	59	60
人工	職員	人工	0.3	0.4	1.0
	臨時職員	人工	22.1	22.1	26.2
	計	人工	22.4	22.5	27.2

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
夢をはぐくむあいち・モノづくり体験事業委託金	60	夢をはぐくむあいち・モノづくり体験事業
合計	60	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
賃金	24,990	4,200	支援員を1年生の学級数+1名とし、4名増員するため。
検査委託料	1,923	△303	検査項目を見直したため。
賃借料	156	156	滅菌した耳鏡、鼻鏡を搬入、搬出も含み賃借する。

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

【学校経営】

各小学校は、児童の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり教育目標を掲げ、学校経営を行った。また、学校教育課は各小学校の特色ある学校づくりを支援し、学校のより一層の活性化を図った。
(大口南小学校) 人間尊重の精神を基調に、夢や希望をもつ心豊かな児童の育成(「明るく思いやりのある子」「よく考え進んで学習する子」「健康でたくましい子」)を目指した。

(大口北小学校) 児童が生涯にわたり、人間として成長を続けていく基盤となる力を養うとともに、知・徳・体(「よく考える子」「きまり正しい子」「たくましい子」)の調和のある人間形成を図った。

(大口西小学校) 「自立する子(自分を大切に生きていく子)」の具現化に向け、「三つの大切(自分の考え、友だち、心と体)」「三つの願い(明るい学校(あいさつ)、きれいな学校(清掃)、うるおいのある学校(環境))」「五つの信条(教師の姿としての「共感」「実践」「創造」「研修」「信頼・尊敬)」を意識して教育を実践した。

【少人数指導講師の派遣】

児童の状況に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着を行った。

【外国語活動指導助手派遣】

新学習指導要領での外国語活動を踏まえ、英語によるコミュニケーション能力の素地づくりを進めた。

【学校支援員の配置】

学校全体としての支援を継続し、平成26年度からは新1年生の学級数+1名を配置した。

【健康診断事務】

法的根拠及び学校医の意見、他市町の状況を確認した上で検便検査については廃止、心電図検査については小学4年生は廃止し、小学1年生のみ実施した。また、耳鼻科器具の賃借については、学校医と相談する中で既存器具の滅菌作業を委託発注した。

■評価

【学校経営】

学校経営の一環として、大口南小学校では「図書館教育・読書指導を通じた教育活動」、大口北小学校では「みどりと環境から学ぶ活動」、大口西小学校では「ビオトープを活用した体験活動」を継続しており、地域住民の協力を交えた活動が醸成されている。引き続き、地域に溶け込んだ学校経営を目指し、地域で子どもを育成する仕組みを整えていく。

【少人数指導等授業】

複数の指導者により各々の集団を指導する少人数指導を実施するため、各小学校に1名配置した。複数の指導者を配置し、児童各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。少人数指導は、担任と指導員が連携し、児童の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で指導員と十分な打合せを重ねる必要があり、児童の学力向上という目標を達成するため、担任、指導員双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

【外国語活動指導助手派遣】

小学校では、国際理解への基礎づくりとして外国文化への興味・関心を高めることができている。今後も引き続き、学級担任と英語指導助手が役割分担する中で、限られた授業時間を有効に活用し、将来の中学校での授業を見据え、児童の英語に対する興味、関心を高めていく必要がある。

【学校支援員の配置】

学校運営全体をみた中で配置及び増員をしたことにより、個別事情を抱えた児童への対応や、学級運営が、よりきめ細かく、柔軟に対応することができた。

今後も円滑な学校運営のために、継続実施していく必要がある。

【健康診断事務】

児童の健康診断については、学校保健安全法に則りまた、生活環境の変化や学校医の意見も踏まえながら、適宜見直しを行い、児童の健康状態の確認を行う。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	4
事業名	小学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の維持管理 ・ 教具、その他の設備の修繕 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口南小学校は平成24年度から新校舎となったため、大口北小学校、大口中学校と同様に一部を総合管理とし、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。 ・ 大口西小学校については、施設老朽化のため、修繕を要する箇所が増加してきているため、屋上防水、内装、設備など適切かつ計画的に行う必要がある。 		
平成26年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口南小学校、大口北小学校の施設管理については、学校薬剤師が行うべき環境衛生検査と施設管理委託項目を明確にし、点検項目に漏れ・重複がないよう実施していく。 ・ 大口西小学校については、施設、設備の老朽化に伴い学校運営に支障となっている、放送設備、複合遊具、汚水管・汚水枘について修繕を実施する。 ・ 各小学校に設置しているAEDのバッテリーが使用期限を迎えるため、順次交換を行う。また小学校設置のAEDパッドは小人用を廃止し、大人用のみとする。 ・ 小学校配膳室の牛乳用カートイン保冷庫のフィルターが劣化してきているため、取替等適切に修繕を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設の保守点検契約（消火器更新含む）
5	大口西小学校 放送設備修繕、複合遊具修繕、污水管・污水枡修繕 保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等 カートイン保冷库フィルター取替修繕 AED バッテリー取替
6.7	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11.12	同上（同上） AED パッド取替
<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。 	

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
	.
H27 年度	.
	.

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	42,866	49,146	51,053
(内特定財源)		千円	145	160	112
人工	職員	人工	0.5	0.6	0.2
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.5	0.6	0.2

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	47	
太陽光発電電力売払収入	65	
合計	112	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
修繕料(北小G)	503	503	学校運営に支障となる経年劣化による不具合について修繕を実施する。
南小学校施設管理委託料(南小G)	6,138	△361	環境衛生検査の点検項目を学校薬剤師と施設管理会社で明確にし、委託に不必要点検項目を削除したため。
樹木剪定等委託料(南小G)	821	521	H25 年度は芝管理のみであったが、H26 より中高木の選定を実施する。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・環境衛生検査について、大口南小学校と大口北小学校については、学校薬剤師が行うべき検査項目と施設管理委託項目を明確にし、検査項目に漏れ・重複がないように実施した。
- ・大口南小学校について、照明の点灯状況が目視でわかるよう、屋外トイレ扉に窓を設置した。
- ・大口北小学校について、老朽化した体育館の誘導灯及び遊具の修繕を実施した。
- ・大口西小学校について、学校運営に支障となっていた放送設備、複合遊具、污水管・污水枘の修繕を実施した。
- ・各学校に設置してあるAEDのバッテリー及びパットが使用期限を迎えるため交換した。
- ・各学校の牛乳保冷库フィルターについて、適切な保冷能力維持のため薬品洗浄を実施した。
- ・大口南小学校と大口北小学校の空調用冷温水発生器について、伝熱面積の変更に伴い、メーカー対応により、ばいじん濃度及び窒素酸化物濃度の測定を行い、基準値以内であることを確認した。

■ 評価

各学校の点検委託業務及び修繕を予定どおり計画的に実施することができた。

大口南小学校と大口北小学校の空調用冷温水発生器のばいじん濃度及び窒素酸化物濃度の測定については、今後定期的を実施する必要がある。

南小学校、北小学校校舎については、新しい施設であるため修繕等は少なく適切に維持管理できているが、西小学校については老朽化が進んでいるため、児童の安全を最優先に計画的・効率的な維持管理に努める必要がある。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	5
事業名	小学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設整備 ・ 教具、その他施設整備 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の耐震化については、平成21年度の大口北小学校移転に伴う耐震化及び増改築工事に続き、平成22年度の大口西小学校耐震補強工事、平成22年度からの大口南小学校新築工事で全小学校が完結した。 ・ 今後は、東日本大震災を契機に、建物の構造体の耐震化だけではなく、天井材、内装材、窓ガラスの落下等、いわゆる非構造部材の現状把握と対策が求められている。平成25年度は、各小学校の校舎及び屋内運動場の非構造部材耐震調査を行った。 		
平成26年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口南小学校については、築山周辺フェンスに激突した児童が骨折した事故があったため、フェンスに防護ネットを張るとともに、防球ネットの支柱にも緩衝材を設置する。また、観察池周辺にコンセントがないため増設工事を行う。 ・ 大口北小学校コンピュータ教室で使用しているプロジェクターについて、現在壁に直接照射して画面を映しているが、映像がぼやけて見づらく、児童の目にもよくないため、プロジェクター用スクリーンを設置する。 ・ 大口西小学校については、音楽室、理科室、図工室、家庭科室、コンピュータ教室、体育館にインターホンがないため、緊急時の連絡が迅速に行えるよう、増設工事を行う。また、保健室に洗濯機がなく、怪我をした児童の衣類等の洗濯が行えない状態であるため、洗濯機を設置するための配管工事を行う。 ・ 非構造部材耐震化については、児童及び避難所施設の安全確保の点から、国庫補助金の動向もみながら早期に工事発注できるように対応する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～	南小学校 防護ネット・緩衝材設置工事、観察池コンセント増設工事
6	北小学校 スクリーン設置工事
	西小学校 インターホン増設工事、保健室洗濯機設置準備工事

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	.
	.
H28 年度	.
	.

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	2,436	7,378	3,105
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.4	0.6	0.5
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.5	0.7	0.7

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
南小学校施設工事費	1,672	1,672	防護ネット・緩衝材設置工事 観察池コンセント増設工事
北小学校施設工事費	135	△1,665	PC室スクリーン設置工事
西小学校施設工事費	856	△2,244	インターホン増設工事 保健室洗濯機設置準備工事

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・非構造部材の耐震化については、大規模空間（屋内運動場等で高さが6 mを超えるまたは、面積が200㎡を超える天井）に該当する大口北小学校屋内運動場の対策工事を実施した。
- ・大口南小学校については、観察池の維持管理用コンセント増設及び築山周辺のフェンスに児童のケガ防止のための防護ネット設置工事を実施した。
- ・大口北小学校については、コンピューター教室にプロジェクター用スクリーンを設置した。
- ・大口西小学校については、緊急時に全ての教室と連絡が取れるよう特別教室にインターホンを増設した。また、児童の衣類を洗濯する施設がなかったため、洗濯機を設置するための配管工事を実施した。

■ 評価

非構造部材の耐震化については、国庫補助対象事業として大規模空間（屋内運動場等で高さが6 mを超えるまたは、面積が200㎡を超える天井）に該当する大口北小学校屋内運動場の対策工事を実施し、地震時の落下物の危険から児童の安全を確保することができた。今後、大規模空間以外の施設については、計画的な改修やメンテナンス時期に併せて対策工事を実施することとする。

各小学校の工事については、当初予定どおり計画的に実施し、安全で快適な学校運営のための環境を整備することができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	6
事業名	小学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題にこたえることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける資質を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本、教材の購入 ・ 教育調査、統計、広報等 ・ 児童の就学のための援助 ・ クラブ活動への援助 		
現在における 経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施している。 <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護児童就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。 ・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立小学校に就学していない児童の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する児童も対象とする対応が必要である。学校給食費については、現在、大口町立学校給食費の2分の1を町が補助しているが、平成24年度から、障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度を施行している。 		
平成26年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の就学のための援助、特別支援教育就学奨励については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童就学援助費申請事務 ・要保護及び準要保護児童就学援助費支払事務 ・特別支援教育就学奨励費申請事務 ・特別支援教育就学奨励費支払事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金申請事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金交付事務

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	6,543	7,766	8,332
(内特定財源)		千円	131	201	210
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.4	0.4	0.6

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
要保護児童就学援助費補助金	10	
特別支援教育就学奨励費補助金	200	
合計	210	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる児童の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定児童の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	7
事業名	中学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改革をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・生徒の健康診断 ・各種検査・テスト 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の多様化に対応するため、教科センター方式を導入した教育活動を進める一方で、自治意識と自浄能力を育むため、学級を基盤とした学年（横）とブロック（縦）の活動を進めている。 ・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進やブロック活動を通じた全体指導体制の確立、道徳の時間を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。 		
平成 26 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導と生徒指導との関連を念頭に置きつつ、学年の枠を超えたブロック活動を核に生徒の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、教科センター方式やブロック活動を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 ・生徒の健康診断事務を効率的に進めるため、耳鼻科器具の賃借を新たに実施することとする。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	全校生徒によるブロック宿泊研修、目標の設定。
10	前期の評価、後期へ向けての活動内容検討。
3	後期の評価、次年度へ向けての課題、改善策の検討。
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科センター方式やブロック活動を通じて、学級活動を基盤とした学年やブロック活動等の教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 ・生徒一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	38,384	39,488	37,546
(内特定財源)		千円	122	85	91
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.6
	臨時職員	人工	10.1	10.1	10.2
	計	人工	10.4	10.4	10.8

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
あいち・出会いと体験の道場事業委託金	91	あいち・出会いと体験の道場推進事業委託料
合 計	91	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
報償費	38	38	大口町元気なまちづくり事業を引き継ぎ、協働事業として実施する。
消耗品、事務用・施設用	3,333	△706	平成25年度机・イスを更新し、平成26年度は計画がないため。
賃借料	78	78	滅菌した耳鏡、鼻鏡を搬入、搬出も含み賃借する。

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

【学校経営】

大口中学校は、生徒の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり目標を掲げ、学校経営を行った。

(教育目標) 豊かな心とたくましい体をもち、生涯にわたって自ら学び続ける生徒を育成する

(生徒実践目標) 自ら学び鍛え 共に夢と友情を育む

(経営方針) 教職員の共通理解のもと、各自の資質と指導力を高め、全教職員で全生徒を育てる。

(重点目標) 生徒の意欲を喚起する学習指導の推進、全職員で全生徒を育てる指導体制の確立、人を大切に作る心の育成、地域に支えられ、地域と共に歩む体制の確立

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

基礎・基本の確実な定着、発展的な学習を行うため、生徒の状況に応じた授業を行い、生徒一人ひとりの力を伸ばす教育の充実に努めた。

【英語指導助手派遣】

英語教育の充実を図るため、英語指導助手を派遣し、教諭の指示の下、発音、会話等の指導を行った。

【健康診断事務】

法的根拠及び学校医の意見、他市町の状況を確認した上で、心電図検査については中学3年生は廃止し、中学1年生のみ実施した。また、耳鼻科器具の賃借については、学校医と相談する中で既存器具の滅菌作業を委託発注した。

■評価

【学校経営】

教員と生徒による教科ラウンジの有効な活用、学級を基盤にした学年（横）、ブロック（縦）の活動等、毎年度、試行錯誤しながらも、着実に独自の学校運営を構築している。引き続き、生徒の育成を第一に、地域と関わりあいながら学校経営を進めていく必要がある。

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

特定の教科で、生徒の状況に応じて個別指導する等、先生とで役割分担し進めるため、大口中学校に3名配置した。複数の指導者を配置し、生徒各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。チームティーチングは、担任と臨時講師が連携し、生徒の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で臨時講師と十分な打合せを重ねる必要があり、生徒の学力向上という目標を達成するため、担任、臨時講師双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

【英語指導助手派遣】

中学校では、英語の正しい発音を学ぶために指導助手を派遣しているが、英語を母国語としている指導助手の発音を生徒が直接聞くことは、外国語を耳で聞いて理解する力を養っている。

今後も、平成24年度から完全実施された新学習指導要領に対応しながら、教科担任と指導助手が、授業展開の事前打合せを十分に行い、生徒に生きた英語力を身につけさせる努力が必要である。

【健康診断事務】

生徒の健康診断については、学校保健安全法に則りまた、学校医の意見も踏まえながら、適宜見直しを行い、生徒の健康状態の確認を行う。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	8
事業名	中学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設の維持管理 ・ 教具、その他設備の修繕 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年4月の開校以来6年が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。 ・ 新校舎のため、竣工後2年は施工者による修補等に対応したものもあるが、天災等、施工者原因によらない修繕や、従来から使用している備品の修繕、或いは、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今後増加するため、計画的な施行が必要となる。 		
平成26年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設管理については、学校薬剤師が行うべき環境衛生検査と施設管理委託項目を明確にし、点検項目に漏れ・重複がないよう実施していく。 ・ 中学校に設置しているAEDのバッテリーが使用期限を迎えるため、順次交換を行う。また、地域開放玄関の小人用パッドも使用期限を迎えるため、交換を行う。 ・ 上水受水槽の補給水弁が故障しているため、修繕を行う。 ・ 配膳室の牛乳用カートイン保冷庫のフィルターが劣化してきているため、取替等適切に修繕を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設設備の保守点検契約
5	保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等 上水受水槽補給水弁修繕 カートイン保冷库フィルター取替修繕 AED バッテリー取替
6.7	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11.12	同上（同上） AED パッド取替
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。

□3年間の目標

項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	29,980	32,736	33,527
(内特定財源)		千円	12	8	8
人工	職員	人工	0.5	0.6	0.4
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.5	0.6	0.4

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	8	
合計	8	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
燃料費 電気	11,880	1,080	値上げが見込まれるため
修繕料	435	△665	上水受水槽補給水弁修繕
施設維持管理委託料	6,485	138	プールろ過機の塩素剤を取り換える必要があるため(隔年実施)

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・環境衛生検査について、学校薬剤師が行うべき検査項目と施設管理委託項目を明確にし、検査項目に漏れ・重複がないように実施した。
- ・学校に設置してある AED のバッテリー及びパッドが使用期限を迎えるため交換した。
- ・学校の牛乳保冷库フィルターについて、適切な保冷能力維持のため薬品洗浄を実施した。
- ・上水受水槽の補給水弁に不具合があったため修繕を実施した。

■ 評価

各学校の点検委託業務及び修繕を予定どおり計画的に実施することができた。
今後も計画的な保守点検を実施し、適切な維持管理に務める。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	9
事業名	中学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設整備 ・ 教具、その他の施設整備 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の外部木製ルーバーは、平成25年度に調査した結果、方角による紫外線、人の接触等による劣化状況に違いがあったため、今後は、南・西面については7年、北面については10年に1回塗装、ナットの緩みの点検工事を実施し、生徒の安全安心を担保できるよう計画的に維持管理が必要である。 ・ 東日本大震災を契機に、建物の構造体の耐震化だけではなく、天井材、内装材、窓ガラスの落下等、いわゆる非構造部材の現状把握と対策が求められている。平成25年度は、校舎及び屋内運動場の非構造部材耐震調査を行った。 		
平成26年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年、25年と2年連続で落雷被害を被っているため、照明制御システム、放送設備、屋外電灯分電盤への落雷被害防止対策を行う。 ・ 来客用の校舎案内看板が少なく、来客や地域開放でみえる方が戸惑うことが多いため、玄関、駐車場に案内板設置及び正門、通用口に既存案内板の改修工事を行う。 ・ 非構造部材耐震化については、生徒及び避難所施設の安全確保の点から、国庫補助金の動向もみながら早期に工事発注できるように対応する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～	来客用校舎案内看板設置工事
5	落雷被害防止対策工事

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	・ ・
H28 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	13,964	1,334	1,238
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.2	0.4	0.2
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.2	0.4	0.2

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
大口中学校施設工事費	1,238	1,238	来客用校舎案内看板設置工事 落雷被害防止対策工事
大口中学校校舎掲示板設置工事	0	△252	平成26年度は設置工事がないため。

■特記事項

- ・開校後15年経過の平成35年には、防水工事を想定(防水工事保証10年)している。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 2年連続で落雷被害を受けた照明制御システム、放送設備、屋外電灯分電盤について、同様の被害を未然に防ぐため落雷被害防止対策工事を実施した。
- ・ 来客への校内案内看板が少なかったことから、利便性向上のため、玄関、駐車場に案内板を設置し、正門、通用口の既存案内板の改修工事を実施した。
- ・ 非構造部材の耐震化については、大規模空間（屋内運動場等で高さが6mを超えるまたは、面積が200㎡を超える天井）に該当する校舎ランチルーム及び屋内運動場の対策工事を実施した。

■ 評価

非構造部材の耐震化については、国庫補助対象事業として大規模空間（屋内運動場等で高さが6mを超えるまたは、面積が200㎡を超える天井）に該当する校舎ランチルーム及び屋内運動場の対策工事を実施し、地震時の落下物の危険から生徒の安全を確保することができた。今後、大規模空間以外の施設については、計画的な改修やメンテナンス時期に併せて対策工事を実施することとする。

落雷被害対策工事及び案内看板設置工事については、当初予定どおり計画的に実施し、安全で快適な学校運営のための環境を整備することができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	10
事業名	中学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題に応えることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける資質を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本、教材の購入 ・ 教育調査、統計、広報等 ・ 生徒の就学のための援助 ・ 部活動への援助 		
現在における経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援、ブロック宿泊研修への参加負担金の補填をしている。 <p>生徒の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。 ・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立中学校に就学していない生徒の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する生徒も対象とする対応が必要である。学校給食費については、現在、大口町立学校給食費の2分の1を町が補助しているが、平成24年度から、障がいにより町立中学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立中学校在籍生徒と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度を施行した。 		
平成26年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の就学のための援助については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費申請事務 ・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費支払事務 ・ 特別支援教育就学奨励費申請事務 ・ 特別支援教育就学奨励費支払事務 ・ 特別支援学校児童生徒給食費補助金申請事務 ・ 特別支援学校児童生徒給食費補助金交付事務

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	9,433	11,063	11,575
(内特定財源)		千円	53	51	51
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.6
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.4	0.4	0.8

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
要保護生徒就学援助費補助金	1	
特別支援教育就学奨励費補助金	50	
合計	51	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる生徒の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立中学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立中学校在籍生徒と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定生徒の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	11
事業名	社本育英事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	大口市名誉町民故社本鋭郎氏のご遺族からの寄付金を基金として昭和57年に発足し、基金運用から生ずる益金等により、大口市在住で町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨学金を交付し、将来社会の一線で活躍されることを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生の推薦及び決定 ・奨学金の交付 ・ ・ 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年度から平成25年度までの31年間で224名の奨学生が誕生し、それぞれ社会の一線で活躍している。 ・平成25年度から社本育英事業スポーツ大賞を創設し、故社本鋭郎氏のご意思、ご遺族の想いに応えられるようまた、地域スポーツの育英や発展を図った。 		
平成26年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生については、学校や地域に寄与するところ、あるいは大口市民として、社会人として、それぞれの立場で活躍されているというところでは一定の成果がある。 ・故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう奨学生の推薦にあたり、事業を展開していく。 ・平成26年度も引き続き社本育英事業スポーツ大賞を実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	奨学金授与式
1	運営理事会の開催通知
	奨学生の推薦依頼
3	奨学生の推薦
	運営理事会による奨学生の決定
	奨学生の決定通知及び奨学金授与式出席依頼
	【年間】
	・卒業見込み者（中学3年生）の進路指導と被推薦者の検討

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H24 計画	H24 実績	H25 計画	H26 目標	H27 目標	H28 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H24 年度決算額	H25 年度当初予算額	H26 年度計画額
事業費		千円	350	350	700
(内特定財源)		千円	18	10	12
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.4	0.4	0.5

■平成 26 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
社本育英事業基金運用収入	12	社本育英事業基金利子等収入
合計	12	

■平成 26 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

- ・ 3 年学級数を奨学生として推薦する(学級数×100,000 円)。
- ・ 故社本鋭郎氏のご遺族の意向により平成 26 年度から奨学金額の改訂を行う。
(50,000 円→100,000 円)

■ 目標又は改善策に対する取組内容

大口町社本育英事業運営理事会を平成26年3月25日に開催し、7名の奨学生を決定し、4月2日に授与式を執り行った。

町内のスポーツ大会であるグランドゴルフ大会、地区別ソフトボール大会の結果を受け、総合的に優秀な成績を収めた行政区に対して、11月にスポーツ大賞の表彰を行った。

故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう、更なる事業の展開について検討した。

■ 評価

故社本鋭郎氏のご遺志とご遺族のご厚意を受け、本事業が継続して実施されることは、少なからず奨学生の心に刻まれ、諸先輩方同様に彼らも本町の明日を担い、本町に寄与する人材となるものとする。本町が考える生涯学習基本構想の中で、若者たちに期待するもの、あるいは将来の彼らに期待するものを十分に理解し事業を進めるとともに、将来にわたって本町に寄与する人材の育成の一助となるよう努める必要がある。

故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応え、また、地域スポーツの育英や発展のため、スポーツ大賞の表彰は今後も継続実施する。

親の貧困が子どもの進学機会を狭くし、低学歴が低収入を生むという貧困の連鎖の問題に対して、少しでも支援できるよう、制度のあり方について検討した。今後も具体的な支援が実現できるよう、検討を続ける。